

第 232回

総研セミナー開催案内



下記の通り第232回総研セミナーを開催いたします。今回は、応用生態システム研究センターによる「屋外空間の熱ストレスの緩和とランドスケープ」をテーマとした講演となります。本セミナーには、本学の教職員、学生、その他どなたでも自由に参加できます。是非多くの方にご参集頂けますようご案内申し上げます。

記

日時：2025年11月14日（金）17：30～19：30
場所：東京都市大学 横浜キャンパス 3号館32A教室
ならびにZoomによるオンライン

お申込み：申込先メールに、お名前、所属、連絡先メールとともに、対面またはリモートの希望を添えてお申込みください。申込先メールアドレス：kijima@tcu.ac.jp

【テーマ】屋外空間の熱ストレスの緩和とランドスケープ

気候変動とその影響は、気象災害、食糧問題から人への直接的な健康被害に至るまで多岐にわたる。2023年には国連事務総長が「地球沸騰の時代」と表現するほどより身近にその危機を実感するに至っている。また都市のヒートアイランド現象という規模での影響のみならず、ヒューマンスケールとしての屋外空間はその土地利用により局所的に厳しい暑熱環境の様相とともに健康被害が深刻になりつつある。人の健康に資するリアルな空間であり、かつライフスタイルの場面々々に不可欠となる屋外空間の役割に言及するならば、変化しつつある暑熱環境への対策も急務である。社会的にウェルビーイングに向けた統合的目標が重要視される中で、多様な屋外活動がその実現に寄与するとともに、国のウォークアブルなまちづくり、都市公園の民間活力の導入による多様な屋外イベントの導入、例えばグリーンマルシェによる交流をはじめとする都市のオープンスペースの利用など重要な施策を効果的に実現していくためにも屋外の熱的快適性に立脚した環境の改善修復を講じていくことが重要であり、あらためてグリーンインフラの概念に基づいて都市環境の整備が求められていく。

本セミナーでは、特に人工面の輻射環境の改善、直達日射の遮蔽手法とその効果を中心に土地利用別の応用手法の議論や市民ニーズに立脚したサーモ環境のランドスケープデザインについて議論したい。

【プログラム】

- ・ 涌井史郎(応用生態システム研究センター長)／未来社会の創生とグリーンインフラの視点
- ・ 堀川朗彦(総合研究所客員研究員)／研究成果報告：暑熱環境と舗装
- ・ 美馬孝之(日本道路研究所長)／研究成果報告：歩きやすさと舗装
- ・ リジャル・ホム・バハドゥル(大学院環境情報学研究科長)
／熱的快適性からみた舗装の課題と期待
- ・ 入江彰昭(東京農業大学地域環境科学部教授)
／ヒートアイランドの視点からグリーンインフラとしての舗装
研究の動向と期待